

挫折と挑戦

西門川中学校 三年 古森 天空
こもり そら

「鳥の眼」これはこの本に出てくる言葉で、「一旦距離を置くことによっていろいろなものが見えてくる」という例えだそうですね。僕はこの言葉に救われました。

僕が、「挫折と挑戦」という本に出会ったのは、僕が部活で「挫折」をしていたときです。この本には、作者の中竹竜二さんが体験した「挫折」と「挑戦」について書かれていました。当時、僕は、部活で全く成長できずにあせっていました。全く成長できない自分と成長していく友達。その差がどんどんひらいていくことにあせりといらだちを覚えていました。そして、ある日僕の心は折れてしまいました。僕が、延岡の大会に出たときのことです。その大会は団体戦でした。僕はその大会で全敗してしまいました。試合の途中から自分が間違いなくチームの足を引っばっていることが分かり、そのせいで、手が冷たくなったり、凡ミスをしたりとさんざんな結果に終わりました。僕は、悔しさ、いらだち、自分の心の弱さ、色々な感情を感じ、挫折を味わうことになったのです。

そんな僕を救ってくれたのがこの本でした。作者の中竹竜二さんは、大好きなラグビーが肩のケガのためにで